

時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第 105 号

平成23年 6月20日

(社) 栃木県幼稚園連合会

〒320-0033 宇都宮市本町12-11 栃木会館2階

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／馬場章信 ●発行人／石嶋 昇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

平成二十三年度を迎えて

栃幼連理事長 石嶋 昇



三月十一日に東北・関東を襲った大地震は、その直後の大津波とも重なり、未曾有の被害をもたらしました。被災されました皆様には心よりお見舞い申し上げます。

また、福島第一原子力発電所では、現場作業員の命がけの作業にもかかわらず、未だに復旧の見通しが立ちません。毎日蓄積されていく放射線量を考えると、栃木県も決して安心できません。今後、監督官庁との対応策への協議・連携が必要となります。

日本国を信頼し、チエルノブイリやスリーマイル島の事故を教訓とした、早期の終息を期待していましたが、現政権の国難への対応には経験不足が否めません。今は一刻も早く総ての力を結集して、復旧・復興に

努めてほしいと祈るばかりです。

今回の東日本大震災では、本県でも大きな被害が出ました。幼稚園でも八十園を超える園で被災しましたが、幸い人的被害は免れました。

災害復旧に関しては、激甚災害の指定により、三分の二まで補助金が出ることになりました。また、全日私幼連からは被害状況に応じて、東北三県とほぼ同等に多額の義捐金が届いています。被災園への早急かつ公平・公正な配分に努めます。

被災園の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

なお、被災県でありながら義捐金のお願いをしましたが、被災された園を含め多くの園から浄財をお届けいただきました。心より感謝申し上げます。

さて、昨年は「子ども子育て新システム検討会議」における幼保一体化の動きに翻弄されましたが、概ねその方向性は見えてきました。実現の可能性は不確定ですが、今の幼稚園の置かれている状況が悪くなるようなことは考えられません。全日私幼連を信じて静観しましょう。

ただ、今回の大震災の影響は私立幼稚園にとつて計り知れないものがございます。私学助成に関しては、かつて無い厳しい対応が予測されます。執行部といたしましても全力で振興活動にあたりますが、会員各位におかれましても、より一層のご支援・ご協力をお願いいたします。

私たちの目の前にいる「子どもたちの幸せを第一に」全力で頑張ってみましょう。

文書学事課長就任にあたって

文書学事課長 北山 勉



本年4月に文書学事課長に就任いたしました北山です。よろしく

お願いいたします。

栃木県幼稚園連合会の皆様には、日頃から幼児教育行政や県政の推進に對しまして、格別の御理解と御協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

さて、この度の東日本大震災では、本県でも多くの幼稚園に被害がありました。被災された幼稚園の皆様にお見舞いを申し上げます。過日の放射線量調査の実施、六月補正予算への被災園舎施設の復旧や被災園児の就園支援に係る経費の計上等、今後

も速やかな対応に努めて参ります。

ご案内のとおり、少子高齢化や情報化、国際化などの進展により、私

勢の変化に的確に対応するため、県では本年4月から「新とちぎ元氣プラン（計画期間：平成二十三～三十七年度）」をスタートさせたところ

です。

この新とちぎ元氣プランでは、政策の基本を「人づくり」とし、各ライフステージに応じた人材の育成と活用を大きな柱としています。そして、子どもを育てる環境につまみし

ては、核家族化や都市化の進行により家庭や地域の絆が失われ、地域の子育て機能が低下していることから、身近な地域での相談体制の整備や子育てを住民同士で支え合う活動の充実を図ることを重点戦略として掲げています。

幼稚園は、幼児に対する教育の他にも、施設の開放や保護者の交流、子育てに係る情報提供や相談を行うなど、社会全体での子育てを推進していく中核的役割を果たしていることから、県民からの期待も従来にも増して大きなものになると思われま

す。

県といたしましては、こうした幼稚園が果たす社会的役割を十分認識し、皆様方の御理解と御協力をいただきながら、引き続き幼児教育や子育て支援の充実に取り組んで参ります。

次代を担う子どもたちが、明るく元気にそして心豊かに成長できるよう、引き続き栃木県幼稚園連合会や幼稚園の皆様とともに、幼児教育の振興や子育て支援の充実などに力を尽くしていきたいと考えております。皆様のさらなる御理解と御協力を重ねてお願いいたします。

平成
22
年度

三月総会



平成二十
二年度の総
会が、去る
三月二十五
日（金）午
後二時三十
分より二荒
山会館の鶴
の間に開
催された。

総会は國吉真理子氏の司会進行により、定刻に石嶋勇副理事長より開会の言葉が始まった。石嶋昇理事長からは、三月十一日の東日本大震災での東北地方の大きな被害、県内においても被害を受けた園に対し、お見舞いの言葉、また本総会の議案である二十三年度事業計画（案）ならびに収支予算（案）の慎重審議を願う挨拶の後、次のように進められた。

【議長選出】

荻原 庸男氏（仁神堂幼稚園）

【資格審査】

（二〇〇園中）出席園 六十園

委任状出席 百十九園

【議事録署名人】

塩沢 順子氏（静和幼稚園）

中村 京子氏（かしわ幼稚園）

【記録人選出】

事務局の河合智美氏を選出して議事に入った。

【第一号議案 細則の一部変更について】

平野総務委員長より、第九条（八）に新たに「認定子ども園対策委員会」の設置、又認定子ども園対策委員会の委員長は常任理事となることの説明があった。審議の結果、原案通り可決承認された。

【第二号議案 平成二十三年度事業計画（案）並びに収支予算（案）】

まず石嶋理事長より平成二十三年度事業計画（案）について説明がなされた後、各委員会から計画（案）の内容について具体的な説明があった。続いて平野総務委員長から平成二十三年度の収支予算（案）が提出され、原案通り可決承認された。

最後に中川副理事長の閉会の言葉で終了した。



平成
23
年度

五月総会



去る五月十三日（金）午後二時三十分より宇都宮市のコンセーレを会場に平成二十三年度五月総会が開催された。

当日は、来賓として栃木県経営管理部文書学事課長北山勉様、同副主幹小倉敬子様、同主任藤巻亮様、幼児教育センター長大塚千枝子様のご臨席をいただいた。

開会にあたり三月十一日の東日本大震災でお亡くなりになられた方へ全員で黙とうを行った。

総会は、石嶋昇理事長の挨拶に引き続き、来賓を代表して北山勉様、大塚千枝子様よりご祝辞をいただいた。

【議長選出】

武田 純子氏（きぬ川幼稚園）

【資格審査】

（百九十七園中）出席園百五園

委任状出席八十一園

【議事録署名人】

西田 一之氏（にしだ幼稚園）

佐野 延洋氏（洗心幼稚園）

【記録人選出】

事務局 河合 智美氏

以上の手続きを経て議事に入った。

【第一号議案 平成二十二年事業報告並びに収支決算書の承認について】



始めに石嶋理事長による総括的な事業報告が述べられ、次に各委員長から委員会の事業内容が順次報告された。

さらに収支決算報告、監査報告がなされ、慎重審議の結果、原案通り可決承認された。

総会後、石嶋理事長より東日本大震災にあたり栃木県では千六百七十八万五千七百七十三円もの義捐金が届けられていることへの御礼と、引き続き十二月二十五日まで活動を継続することの説明があった。



認定こども園対策委員会 発足にあたり

担当副理事長 石嶋 勇

栃幼連の常置委員会として、平成二十三年より「認定こども園対策委員会」が発足した。

平成二十三年四月一日現在の県内の認定こども園数は十二施設あり、類型は幼稚園型が三、保育所型が二、幼保連携型が七である。

いずれにしても、日本の将来を守るために私たちは幼児教育を忘れることなくお一層の「質の向

認定こども園対策 委員長あいさつ

認定こども園あかみ幼稚園 中山 昌樹



この度、初代の委員長を拝命いたしました中山です。皆さんのお力を得て、それぞれの地域の子どもの私たちの「最善の利益（子どもの権利条約で言うところの）」に寄与したいと願っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、今回の東日本大震災では、想像を超える甚大な被害に遭遇したわけですが、子育て・子育てをめぐる状況に目を向けると、ある意味、極限状態の下、そこでの危うい環境が明らかにされたと言え

上」を目指し続けなければならぬ。幼児教育と福祉サービスを両立する認定こども園は、今後の幼保一体化の流れの中で、国・県への提言やその政策に対して大きな影響力を持つこととなる。責任は重大である。

また、職員配置の問題、教職員の資格の問題等、現場では様々な問題があると聞いているが、中山委員長を中心に、その解決に向けて情報交換・意見交換を重ね、大きな成果を上げていくことを期待している。

るでしょう。例えば、小学校以上と比較して行政窓口との連携が十分でなかったこと、幼一保が二重行政であるがために避難してきた子どもたちの受け入れがスムーズにいかなかったことなどがあげられます。

あらためて、親の就労の有無などで区別されることのない、地域のすべての子どもたちを包み込む地域コミュニティの再生が必要だと考えます。そのためには、「教育」と「養護」をそれぞれの発達の子どもたちに保障する、「一体性」と「一貫性」をもった保育施設が求められるでしょう。加えて、行政との連携や地域コミュニティの再生のための「街づくり」の観点も不可欠と言えるでしょう。

栃木県私立幼稚園振興連盟平成二十三年総会



平成二十三年度栃幼連五月総会終了後、栃木県私立幼稚園振興連盟の総会がコンセーレ

にて開催された。

石嶋勇振興連盟会長より、昨年七月の参議院選挙、今年の統一地方選挙において成果を上げられたことにつき、会員各位の協力に感謝する。今後も自民党県議と連携し、補助金の獲得等振興活動に成果を上げていきたいとの挨拶の後、議長に武田純子氏（きぬ川幼稚園）を選出後、「資格審査」会員数百七十八名中、出席九十六名、委任状出席五十五名、「議事録署名」西田一之氏（にしだ幼稚園）佐



果を上げていきたいとの挨拶の後、議長に武田純子氏（きぬ川幼稚園）を選出後、「資格審査」会員数百七十八名中、出席九十六名、委任状出席五十五名、「議事録署名」西田一之氏（にしだ幼稚園）佐

野延洋氏（洗心幼稚園）「記録人選出」河合智美氏（事務局）の手続きを経て議事に入った。①平成二十二年事業報告並びに収支決算の承認について②平成二十三年度事業計画（案）並びに収支予算（案）の承認について③自由民主党栃木県私立幼稚園支部平成二十二年収支決算並びに平成二十三年度収支予算（案）の承認についての三議案は、すべて原案通り可決承認された。閉会后、県議会議員に初当選した阿部博美氏よりお礼と今後の抱負について挨拶があった。





平成二十二年度 幼稚園問題研究会

期日 平成二十三年三月十六日(水)
時間 午後三時～
会場 二荒山会館(高砂の間)



毎年行われている本研究会が、
栃木県文書学事課より、

副主 幹 村上 順一氏
主 査 池澤 紀子氏
栃木県幼稚園連合会から、

理事長 石嶋 昇氏
副理事長 石嶋 勇氏
副理事長 小林 研介氏
副理事長 中川 祐慈氏
振興委員長 磯 行雄氏
経営研究委員長 酒井 精一氏
広報委員長 馬場 章信氏

芳賀地区会長 小瀬 昭一氏
鹿沼地区会長 青柳 信一氏
合わせて十一名の出席により行
われた。

始めに石嶋理事長より挨拶があ
り、続いて文書学事課から平成二
十三年度の県予算の概要説明と平
成二十二年度の幼稚園設置学校法
人等財務関係調査結果の報告があ
り、諸問題について協議した。



教員養成機関・

栃幼連懇談会

平成二十三年五月三十一日(火)
午前十時三十分～
於：二荒山会館(亀の間)

県内の幼稚園教諭養成機関と栃
幼連正副理事長・各委員長との恒
例の懇談会が開催され、平野総務
委員長の進行のもと、活発な情報
交換が行われた。

●出席した教員養成機関(順不同)

作新学院女子短期大学部二名、
白鷗大学二名、國學院大學栃木短
期大学一名、足利短期大学二名、
佐野短期大学二名、宇都宮共和大
学二名、国際介護福祉専門学校一
名、宇都宮ビジネス電子専門学校
二名

●主な懇談内容

①幼稚園教諭就職説明会について

日時：七月九日(土)十二時～
場所：マロニエプラザ

ここ数年、参加学生の減少傾向
が続いていることを踏まえ、その
理由についてお聞きした。

学生数の減少に加え、「幼稚園の
方が責任が重く大変」「採用試験の
ピアノが無理」との学生の声があ
ることが紹介された。

また説明会に行っても目当ての
幼稚園が来ないとか、採用がな
いと言われた等、即就職につな
がない今の説明会の在り方につ
いて指摘いただいた。

なお、今回も説明会実施に対し
て養成機関各校からご協賛をた
まわることになった。

②教育実習について

各校の二十三年の実習期間、
計画について確認した。

③学生の幼稚園就職に関する

諸問題について

養成機関から様々な問題が提起
された。学生の保育所志向の理由
は、ピアノなど「幼稚園の方が大
変」というイメージ。幼稚園の採
用スケジュールが園によってまち
まちで施設実習等に追われる学生
にとっては動きを計画しづらい。
栃幼連HPの採用情報が更新され
ていない。雇用条件が明確に示さ
れない、等々。今後、栃幼連とし
て対処していく
ことになった。

その他として
栃幼連から、園
で働きながら保
育士資格を取得
できる方法の提
供、複数内定の
問題の再指導が
要望された。





いいのか、理論・技術・歴史・知識・使い方、考えていけばきりが無いほど、教師の学べき範囲は途方も無く無限大です。今持っている自分の子ども観や保育技術だけで充分と思っている教師は、少数ではないかと思えます。

日々の保育の中で必ず新しい発見があり、新しい疑問にぶつかり、今までのやり方では通用しない事も多く戸惑うはず。多くの教師は、それでも自分のやり方を変



教育研究委員長 戸田 直樹

平成二十三年度の研修について

教師は何を学べばいいのか、どれだけの学べばいいのか、どのようにして学べば



えようとせず、いともあっさり子どもや親のせいにしてしまっています。従って子どもたちも変わりません。結果、充分な成長発達を保証でき

なくなってしまう。本来ならば子どものせいではなく自身の保育にその矛先が向かなければならないのを、他者に向けてしまい、そこから逃れようとする。これでは子どもは変わりません。子どもの持っている可能性を引き出すことは到底無理です。

そもそも教育の営みとはどういう事なのかを自身で結論付けなければなりません。その中で必要な事が何であるのか、自分に足りないものは何なのか、それを埋めていく為に学べき事は何なのかを見極める事が大切なのです。何年も何十年も同じやり方では、救える子どもたちの数は高が知れています。教師である以上、教師を続ける以上、更に上を目指す修業を地道に続けるべきなのです。

幼児教育には、この方法が絶対正しいなどという教育法（保育）は存在しません。仮にあったなら全ての幼稚園、全ての教師が、その方法で保育しているはず。

絶対正しい教育法が無いからといって、それぞれの幼稚園が、独自の教育（保育）を行っているのです。

栃木県幼稚園連合会が行う研修会の内容は、多岐にわたります。時には何故と思われるようなタイトルが付く講座もあります。しかし、教師として研鑽に勤め、その質を高めるには、自身の人間性を高める事までも含めた研修が必要です。知識だけでなくそれを使いこめる能力、そこから発展し更に自身の工夫で生み出していく保育技術、同時に人間としての幅も広げていく事が肝要なのです。何故ならば、子どもたちの行為や行動や言葉は、教師の人間性を映し出す鏡だからです。

毎年の夏の研修会でも、分科会の議論が活性化せず、意見も出ない事が多くあります。ただ助言者の話を聞いてメモを取るだけの研修会では、勿体無いと思います。いろいろな工夫をしています。助言者の話が絶対的なではなく、各分科会での主役は参加される教師なのだという事を、改めて自身の胸に刻み込んで欲しいと思います。



平成二十二年 理事会開催記録

- 平成二十二年四月二十一日
平成二十一年度事業報告並びに収支決算書の承認について
役員改選について
- 平成二十二年五月通常総会について
幼稚園教育振興懇談会について
平成二十二年（二十三年）役員構成について
- 各委員会の専門委員選出方法について
全日本私立幼稚園連合会 評議員及び理事の選出について
全日私幼連関東地区神奈川地区会 理事の選出について
平成二十二年 幼児教育センター事業の委員等の推薦について
- 平成二十二年六月四日
各委員会の事業計画について
第五十七回栃木県幼稚園教育研究大会について
- 平成二十二年七月十六日
各委員会の事業執行状況について
第五十七回栃木県幼稚園教育研究大会について
- 平成二十二年九月二十二日
教育功労者表彰について
各委員会の下半期事業の具体案について
- 平成二十三年年度予算要望書（案）について
理事研修会について
第二十五回全日私幼連関東地区代表者協議会栃木大会について
- 平成二十二年十二月十五日
各委員会の執行状況について
認定こども園対策委員会の設置について
- 第二十五回全日私幼連関東地区代表者協議会栃木大会について
2歳児の受け入れに関するホームページ掲載について
今後の日程について
勤務規定の一部変更について
- 平成二十三年三月八日
平成二十二年年度収支決算（見込）について
予算総会提出議案について
幼稚園問題研究会について

東日本大震災
一日も早い復興を

震災から三カ月が経った。連日、テレビからは、東北地方の現状と、地元の人たちのがんばりによる復興への兆しが伝えられるが、まだまだ道筋が見えてきていない。

県内幼稚園の被害状況

県内の幼稚園も人的被害こそなかったが、通常保育が不可能になった園をはじめ多数の被災園があった。これから実際の被害規模が明らかになっていくと思うが、被災直後の見立てでは、建物・設備等の被害額として、一千万以上が八園、五百万円以上が六園、三百万円以上が五園、百万円以上が二十園、百万円以下が四十園と、合計で八十一園が何らかの被害を受けた。



が、栃木県は五月半ばになって全幼稚園における放射線量調査を実施した。福島県に近い県北の幼稚園で若干高い値が計測されたが、

文科省が示した暫定基準「一時間あたり三、八マイクロシーベルト」に照らしても半分以下であり、園舎・園庭を通常どおり使用しても問題のない水準であることが確認された。とは言え、局地的に高い放射線量が測定される「ホットスポット」が話題となっており、園全体の線量測定をするために各園に線量計を貸し出す等の対策を要望したい。

義捐金活動を通じて

このように県内の幼稚園も大きな被害を受け、また家庭でも勤務先でも被災された方も多かったのではないかと思われるが、全日私幼の呼びかけによって県内の各幼稚園を通じて多額の義捐金が寄せられた。

六月十三日現在で、千八百二十二万二千三百八十七円となり、今年十二月二十五日まで活動が続けられる。

被害を受けた

幼稚園のために、
お父さんお母さん
を亡くしたお友
だちのために、
住む場所をなく
してしまったお
友だちのために



が添えてあったり、手作りの貯金箱に入れて届けられたりと、お家でお父さんお母さんと一緒に、一生懸命被災者のことを思いやる子どもたちの心に触れる機会にもなった。

他にも、福島から家の近くに避難してきた子どもたちのために、貯金箱を壊してオムツを購入し差し入れた年長児、家に呼んであげようよと提案した年中児、など、心温まるエピソードがたくさん報告されている。

青年部が研修会

栃幼連青年部では、NPO石巻復興サポートセンター専務理事を務める青木隆樹氏（宇都宮在住、ソーラーREX JAPAN株式会社社会社代表取締役）と石巻在住で実際に津波被害にあわれ、現在青木氏と共にセンターのスタッフとして活動する佐々木之博氏を講師として、研修会（六月三日、於…ホテルニューイタヤ）を実施した。

佐々木氏は、

本当は思い出し
たくもないと言
いながら、子ど
もたちを守る一
助になればと、当時の生々しい様子
を話してくださった。



「流されていく多くの大人、子どもを目の当たりにした」「助けたくても助けられない。ごめんねと祈りながら流されていく人を見ていたら、目があつた」「人間の本性をむき出しにされてしまった」「今でも親は行方不明の子どもを探し回っている」……。

青木氏からは、子どもたちを預かる私たちに貴重なメッセージをいた

だいた。「有事の際に子どもを命を絶対を守る備えはあるか」

れない」「連絡手段がすべて無くなったらどうする」「両親が亡くなったらしまったら誰も迎えに来ない」「園児と我が子が同時に流されたらどちらを助ける（考えている暇はない）」「急に園長がいなくなっても、意思決定し指示命令系統が機能するようになっているか」「園が避難所になり近所の人が押しかけて来るかも」「水・食料は備蓄してあるか」……。

涙しながら聞いていた青年部の先生たち。あらためて私たちの仕事の「大切な命」をお預かりするという責任を確認し合った。

私たちにできること

まだまだ復興への動きは始まったばかり。瓦礫や汚泥の除去が遅々として進まない、長引く避難所生活によるストレス……。ボランティアの手が足りない地域もまだまだあるようだ。

東北の被災地を訪れて実感するのは、子どもたちの笑顔が大人たちの元気のもとになるといふこと。

そのために私たちに何ができるのか。今、一人ひとりが考え、動き出すことが求められている。一日も早い復興を実現するために……。

(文責 広報委員長 馬場章信)





幼児教育センターだより

「魅力ある幼児教育を！」

幼児教育センター長 大塚 千枝子



栃木県幼稚園連合会の皆様には、栃木県幼児教育センターの各種事業にご理解・ご協力をいただき、大変ありがとうございます。

皆様方の園では、本センターのマスケット「ぴよちゃん」のような新入園児たちが、園の生活に慣れ元気に遊んでいる頃でしょうか。私は、4月にセンター長として着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

私もセンターは、おかげさまで今年十年目を迎えることができました。指導主事と顧問、専門員の八名で事業を進めており、連合会の皆様のご協力のもと多くの成果をあげております。今後ともご支援よろしくお願いたします。

さて、新しい幼稚園教育要領が実施され、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものとして、また、



センターマスケット
ぴよちゃん

義務教育及びその後の基礎を培うものとして、幼稚園の重要性が強調されました。

さらに、義務教育及びその後の教育という視点から考えますと、小学校との連携が重要になります。健全な成長を促すためには、小学校との連携は必須であり、一人一人の発達課題を共通に理解し指導の手立てを講ずることによってさらなる成長が期待できます。教師の役割としては、「二つの『もたせる』：興味・自信・責任」を考えながら指導することも大切になると考えます。

私たちは、これからの社会人を育てるという視点を持ち、幼児教育を進めなければなりません。現在の園児たちが将来の社会を形成することを念頭において、連合会の皆様と一緒にすばらしい環境を整え、園児が切磋琢磨しながら心身に健やかに成長することを願い、そのために魅力ある幼児教育を推進できるようにがんばっていききたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

幼児教育センター事業

四月六日に第一回新規採用幼稚園教諭研修を実施し、本年度採用の若さみなぎる先生方、一八八名とともに、幼児教育センター事業もさわやかなスタートを切りました。

開講式では、石嶋 昇 栃幼連理事

長、北山 勉 文書学事課長、大塚 千枝子 幼児教育センター長からあいさつがあり、幼稚園教諭となった先生方へのエールが送られました。



「幼稚園教育とは」「幼稚園教諭としての心構え」「幼稚園における人権教育」「幼児期の健康管理と安全管理」の講話があり、受講の先生方からは「自分が保育者であり、子どもたちの人生にかかわるのだということを実感した。」という感想が多く寄せられました。



今回の研修では、東日本大震災の教訓を生かすために、センター初の研修中における避難訓練を行いました。突然の訓練でしたが、受講者は落ち着いて行動していました。日頃からの心構えが大切であることを確認しました。

この研修では地区研修を含め九日間の集合研修があります。生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な幼児期の教育の意義を先生方が受け止めるよう、子どものかかわりを深められるよう、職員一同、応援させていただきます。

新規採用幼稚園教諭研修の他にも、これから夏休みにかけて、多く

の研修があります。

各研修についての詳細は、幼児教育センターガイドブック（今年は黄色の冊子です）をご覧ください。たくさんの先生方の参加をお待ちしております。

センター職員紹介

今年度は、センター長と指導主事一名が新メンバーとなり、八名の職員でスタートしました。

- センター長 大塚 千枝子
宇都宮市立田原西小学校より
- 指導主事 前原 由紀
宇都宮大学教育学部附属幼稚園より

何事も「チームワーク」を合言葉に取り組んでいきたいと思っております。これまで皆様のご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

よろしくお願いします



(前列左から)
松本補佐・大塚センター長・青木顧問
(後列左から)
瀧田幼児教育専門員・高木指導主事
鈴木(智)副主幹・前原指導主事・
鈴木(喜)幼児教育専門員

(文責 鈴木 智恵)



学事だより

県文書学事課

四月の定期異動により、文書学事課に北山課長、渡邊課長補佐（総括）が、また、幼稚園関係では、小倉副主幹、藤巻主任が配属となりました。私共一同引き続き私立幼稚園行政の推進に努めてまいりますので、本年度もよろしくお願いいたします。



- 伊藤 主任
- 池澤 主査
- 小倉 副主幹
- 篠崎 主査
- 藤巻 主任
- 村上 課長補佐
- 北山 課長
- 渡邊 課長補佐（総括）

学校基礎調査（教職員確認等）のヒアリング実施について

学校基礎調査（第二回・教職員確認等）のヒアリングを次の日程で実施します。御多忙のところ誠に恐縮ですが、担当者の出席について、御協力をお願いします。

● 日程 平成二十三年七月四日（月）

～七月十一日（月）

● 場所 本館六階大会議室一

その他詳細については、別途送付している通知文を参照願います。

各種届出書類について

平成二十二年度及び二十三年度に園則、園地・園舎、理事・監事等の変更を行い、届出を提出されていない場合は、速やかに提出されるようお願いいたします。

なお、「幼稚園事務の手引き」（平成二十三年四月）を作成し、四月に送付いたしましたので、届出書類の作成等にご活用ください。



平成二十三年七月

九月までの事業予定

7月1日	柘幼PTA総会
7月2日	※幼・保小連携研修 教頭・主任講座
7月6日	保育セオリー講座
7月9日	就職説明会
7月12日	資質向上選抜養成講座Ⅶ
7月26日	※合同研修（幼・保小） 第58回県教研大会
7月27日	バス安全運転講習会 新採研（集合研修）
7月29日	免許状更新講習
8月1日	※10年経験者研修 ※特別支援教育研修
8月5日	新採研（宿泊研修） ※10年経験者研修
8月8日	資質向上選抜養成講座Ⅶ
8月10日	※パワーアップセミナー ※バリアフリーセミナー
8月18・19日	全日私幼関東地区教研大会（山梨） 資質向上選抜養成講座Ⅶ
8月22日	※スキルアップセミナー
8月23日	※特別支援教育研修
8月24日	※保育教育課程研究セミナー
8月25日	※スキルアップセミナー
8月26日	※保育を語る会
9月3日	※スキルアップセミナー
9月9日	設置者・園長研修会 保育アグニカル講座
9月15日	※トップセミナー
9月28日	※は幼児教育センター事業

表彰

平成二十三年度 春の叙勲

瑞宝双光章（教育功労）

● 山辺幼稚園 理事長・園長
阿由葉 浦吉様

編集後記

東日本大震災から、百箇日を迎えました。数多の殉難諸精霊の菩提をお祈り致します。特に、いまだ遺体さえ見つからないご家族の方の心中いかばかりか、拝察申し上げます。テレビ映像で、ガレキの山を手にした棒でつつきながら我が子を探す母親の悲しい姿を映していました。個人でできることは知れたもの、国はもっとスピード感をもって事にあたれないものでしょうか。

義援金もボランティアの数も集まらなくなっている中、青年部委員会メンバーを中心に柘幼連関係者も実際に被災地支援に行かれた方、これから行く方がいます。戻られたら是非そこで感じられたことや被災地からのメッセージを一人でも多くの方にお伝えいただきたいと思います。

六月第三日曜日は「父の日」、多くの園で父の日になんだ行事が行われたことでしょう。

東京都副知事猪瀬直樹氏が嘆いて曰く「総理の言動からは、国や国民を守らなければならないという家長意識が見えない」と。家長意識を問われると耳が痛いですが…。

県内の我々のお仲間の中にも園舎等に大きなダメージを受けた園もあったと聞きます。この場をお借りしお見舞い申し上げます。

（広報委員 大塚真司）